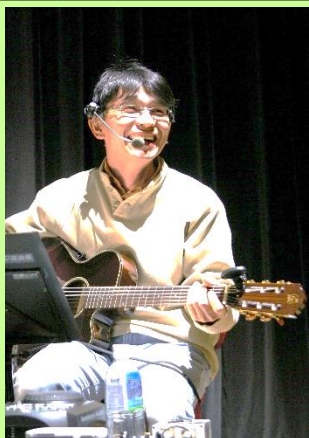




9月27日(水) 体育館完成記念「地球のステージ」コンサートから

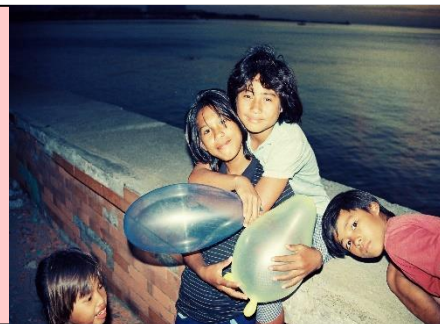
8月に新体育館が完成したことを記念して、PTA教養厚生委員会が中心となって「地球のステージ」コンサートを開催しました。地球に起きている(紛争、災害、貧困等)現状について、SDGsやESD(レジリエンスを育むための教育的観点も含む)の要素も踏まえた上で国内外の被災地での国際医療支援活動を含めた体験談を映像、音楽を通して学ぶ機会となりました。そして、当日は生徒・保護者・教職員の全員で鑑賞することができました。たくさんの映像とともに、今の自分の置かれている環境に幸せを感じたり、自分の悩みがどんなにちっぽけなものかと考えたりと、生徒たちのメンタルヘルス教育にもつながるような内容もありました。その後の生徒たちからの感想とともに内容を少しご紹介します。



精神科医・心療内科医・医学博士
NPO法人地球のステージ代表理事
桑山紀彦さん

フィリピンの少女 ロエナスとの出会いから

小学3年生くらいの彼女は学校にも行けず、通りを歩く人にお金をちょうだいとすぐる生活を送っていた。父親を戦争で亡くし、祖母と母と弟妹の7人で海岸の大きな穴に住んでいた。その少女と家族との出会いから…桑山さん自身が「自分はたくさんの人に助けられてきた。それなのに誰にも恩返しをしていない。」と気づかされた。



アフガニスタンの少年 ザーベルとの出会いから

空爆で両親を亡くし、自分を引き取ってくれた肉屋のおじさんの仕事を手伝うべく、売る肉を買うためのお金をチェスの板1枚で稼ぐ少年。1回勝つごとに50円稼ぎ今財布には20万円を貯めている。



自分の好きなものを極める。そして誰かのためにその力を使う。



難民キャンプで出会った姉妹 アディア・トニアとの出会いから

難民キャンプといういろいろな人たちが身を寄せ合い生活している過酷な環境の中で、水タンクをドラムがわりにして、楽しそうに歌いながら大人を励ます子どもたち。

自分の好きなものひとつをみがくこと。そして諦めないで続けること。それがいつの日か役に立つ日が来る。

【 生徒の感想から 】

- ・ 私がくじけることが少し情けなく感じ、私と同じ年齢の子や私より小さい子の言葉で励まされたような気がしました。前から少し興味を持っていたボランティアをもっとやってみたくくなりました。
- ・ 世界には困っている人がたくさんいて、とても勉強になった。今までで一番SDGsに興味を持てた。
- ・ 世界中には学校に行きたくても行けない子、自分の国に帰れない子、家族がいない子、お金がなく食べ物を食べられない子、いろんな人がいてそれぞれポジティブに考えて生きていることが分かって自分も精一杯頑張ろうと思った。
- ・ 海外の人たちの「普通」は、僕たちと同じ「普通」じゃないと思った。僕が生きている今は当たり前じゃないと強く感じた。
- ・ 歌声が透き通っていてすごかった。差別がない世界になってほしいと思った。
- ・ 世界の美しさや人間の美しさやむなしさを感じた。世界の人間は日本人よりはるかに気持ちや心が強いと思った。
- ・ 今地球では戦争や差別が起こっており、自分たちは直接その場にいて何かをしてあげることにはできないけど、助けたい気持ちがあれば伝わると分かった。
- ・ 「好きなことは続けた方がいい。必ず人のためになるから」という言葉が心に響きました。

【 保護者さんの感想から 】

- ・ トルコやウクライナ、子どもたちが耳にしたことがある話題で、映像や音楽に引き込まれた。子どもたちはまだ日本という国の一部しか知らず当たり前のことが当たり前ではないということに気がついてくれたらなあと思いました。
- ・ 是非生徒の皆さんには視野を広げて世界に出て多様な人々との関わりの中でたくましく生きてほしいと強く思いました。そう思わせてくれるステージでした。小学生にも十分に伝わる内容だと感じましたので、機会があるとよいと思います。

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING



7 CLEAN WATER AND AFFORDABLE ENERGY



10 REDUCED INEQUALITIES



2 ZERO HUNGER

